

時事通信社 iJAMP

iJAMP記事

## 【クローズアップ】 デジタルスキルで「女性を元気に」 = 田中美華・リモットさん社長

24/03/26 08:30 NG078

青森県で「ズーム」や「スラック」などのデジタルツールを駆使し、企業の事務をリモートで代行する女性たちがいる。「リモットさん」（八戸市）は女性にデジタルスキルの研修を行い、オンライン秘書として育成する会社だ。これまで女性の人材開発に取り組んできた田中美華社長（たなか・みか＝36）は「リモートで世界をつなぎ、女性と社会を元気づける会社になりたい」と話す。

立ち上げは2023年2月。同社でデジタルスキルを身に付けた女性たちも「リモットさん」と呼ばれ、現在は20～70代の50人が登録する。取引先の約95%は首都圏の企業が占め、そこから受注した業務は女性たちに再委託。SNSの運用や資料作成、メール返信、経理などの代行をリモットさんたちが行っている。

こうした業務は、子育て中の女性たちが自宅で収入を得る機会にもなっている。「家庭のことがあるので『出社してこの仕事をずっとやれ』と言われるとできない人たちが、『短時間でチャレンジして』と言えるのがデジタルの力だ」と語る。

「張り合いや生きがいできて、こんなに楽しくなるとは思わなかった」。田中さんは、それまでズームに触れたこともなかったリモットさんの一人からこう言われたことがある。この女性は子育てが落ち着き、「何か新しいことをやってみたい」と思い、デジタルスキルを学んだ。現在は田中さんが期待する以上の仕事ぶりだ。多くの女性が変わる様子を見てきて、「女性が元気になるのは県の元気にもつながる。チャレンジできなかった人がチャレンジできるようになるのが一番大きい」と話す。

都内のスタートアップ企業での勤務経験もある田中さんにとって、地元・八戸は「女性は家を守るという価値観が強い」地域という。多くが共働き家庭なのに男性が働き、女性は仕事と家庭を両立する現状に「やりたくてやっている人はいいが、窮屈だ」と感じてきた。男性スタッフと営業に行った際、相手が田中さんとは一切目を合わさず、男性スタッフの言うことしか聞いてくれない場面に遭遇したのも一度ではない。

「女性たちの『働きたいのに』『学びたいのに』といった『のに』できないというパワーを地域で感じている」と田中さん。「研修をすることによって、女性が自由に生きたり、働けたりする環境がリモートで実現可能だ」とデジタルの可能性を強調した。

（青森支局・戸所直人）（了）（2024年3月26日配信）



田中美華・リモットさん社長

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.